

リンゴ褐斑病に対する開花直前散布の防除効果

【概要】

春期温暖化に伴い褐斑病の発生生態は変化し、一次感染は従来の「落花期」よりも早い「開花期」から始まっており、早期・多発傾向です。この早期感染に対応するため、褐斑病に対する開花直前散布の防除効果を検討しました。

1 開花直前の薬剤選択による防除効果（図1）

(1) 従来の重点防除時期（落花期～落花20日後）に加えて、開花直前にオンリーワンフロアブルを選択すると、夏期の早期発生に対する防除効果が認められます。

(2) 一方、秋期になるとリンゴ成葉の感受性が高まるため、伝染源密度の高い前年多発園では上記の防除効果は持続しません。そこで、秋期の発生を抑えるためには、二次感染を対象とした夏期の防除対策を併用する必要があります。

2 今後の防除対策

(1) 開花直前の薬剤選択を組み合わせた褐斑病の防除体系は下表のとおりです。

表 褐斑病を重点対象とした防除体系

防除時期	散布別	薬剤名（商品名）	防除対象
開花直前	定期	オンリーワンフロアブル	一次感染
落花期～ 落花20日後	定期	デランフロアブル ラビライト水和剤	
6月中・下旬	特別	ユニックス顆粒水和剤 47	二次感染
7月上旬	定期	パスポート顆粒水和剤	
7月中旬	特別	トップジンM水和剤／ベンレート水和剤	
8月以降	特別	トップジンM水和剤／ベンレート水和剤	

※太字：令和6年度県防除技術資料（旧防除指針）に採用した防除法

【試験データ等】

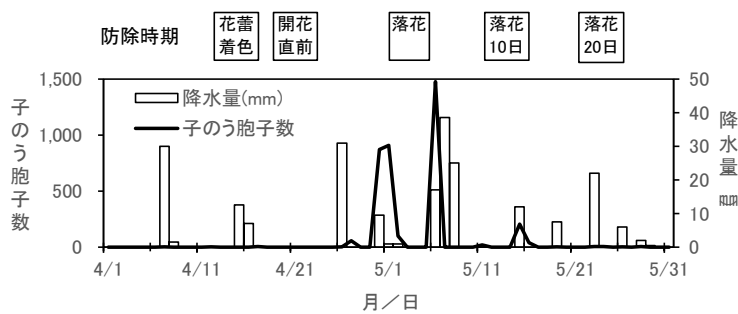


図1 子のう胞子飛散消長と防除時期の関係（R5、所内圃場）

摘要) 近年、子のう胞子による一次感染開始日は開花期に前進化。従来の重点防除時期（落花期～落花20日後）より早く感染するため、防除タイミングを逃しています。

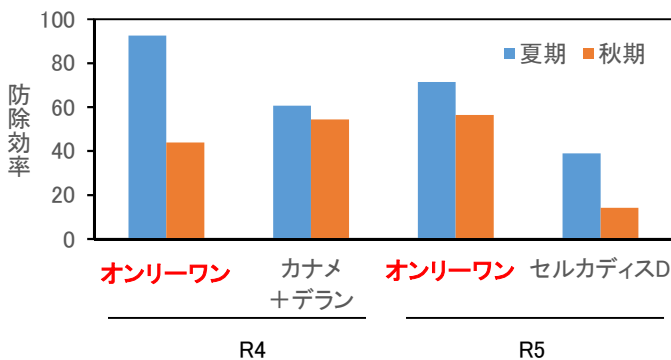


図2 開花直前散布の防除効果（R4、R5）

※防除効率：対照剤（カナメ）との比較

摘要) オンリーワンフロアブルの開花直前散布は、夏期の早期発生を抑制できますが、秋期までは防除効果が持続しません。このため、前年多発園では、二次感染防除の併用が必要です。

【令和5年度成果】リンゴ褐斑病に対する開花直前散布の防除効果（R5-普-20）